

## 寒冷対策



# 生まれたての子牛を 寒さから守ろう!



使用中のカーフウォーマー  
Polidome社製、価格は10万円前後

毎日のお仕事お疲れさまです。朝晩の冷え込みも厳しい上に、今年のように真冬が続くと、牛舎作業も辛いですね。寒冷ストレスは体力を消耗し、疲れもぐっと増して感じられます。

これはきっと牛も同じように感じているはず。特に哺乳子牛は、体重に比べて体表面積が広く体温を奪われやすいこと、子牛の生産限界温度（子牛の増体に影響を及ぼす温度）が13℃と言われている、道東の冬は子牛にとって厳しい環境であることから寒冷対策が重要と考えられます。

子牛の損耗防止のため、生まれたての新生子牛のために何か対策を提案ということで、今回はカーフウォーマーをご紹介します。

その風貌から私は、勝手にトーマス君（機関車トーマスにそっくり）と呼んでいます。青くて役に立つ、温かい奴です。構造はドーム型の子牛ハッチで、中にはスノコ、その下に温風を出すヒーターが入っています。生まれてすぐの濡れ子を入れておけば、温かい風が下からふんわり、屋根があるので対流して効率よく被毛を乾かしてくれます。人がかかりつきりで濡れ子の体を乾かすとなると結構大変で、時間も手間もかかってしましますが、トーマスに入れておけば子牛が逃げ出すこともなく、安心して置いておけます。その間に初乳の準備や親牛の管理が出来ますね。もちろん効率よく乾かしてくれますから、子牛の被毛が汚れているようならお湯で洗って臍の消毒をしてからトーマスに入れば、臍帯炎の予防にもなると思います。

体温維持には思ったより多くのエネルギーを消費します。体が濡れて低体温になった子牛は、初乳の飲みも悪くなってしまう。初乳をしつかり飲ませるためにもトーマスは一役買ってくれるはず。



昨年1月に開かれた農家女性の勉強会「ならの木学級」。ここで導入を決めた方も多数。  
(釧路農業改良普及センター提供)

もちろん、そのほかの理由で低体温症に陥った子牛の蘇生にも応用は可能です。ただ原因によっては治療を併せて行う必要があると思うので、診療所の獣医師に相談してくださいね。

私の所属する標茶の診療区域では、昨年の講習会をきっかけに導入した方も含め、10軒ほどでトーマスを使用しています。「使ってみて、どう？」と聞くと、「すっごくいいよ！」と良い返事が返ってきます。使っている人の実感は何より参考になるのではないのでしょうか。

(標茶家畜診療所獣医師 茅先 史)